千里眼 <230>

モバイル活用に注力

ジェーエムエーシステムズ
代表取締役社長　坂倉　猛氏

ジェーエムエーシステムズは、1971年に日本能率協会コンピュータ事業部が改組して設立。金融システム開発やクラウド活用、スマートフォンやタブレット端末向けアプリケーション開発によるモバイル活用など各種サービスを手掛ける。代表取締役社長の坂倉猛氏（57）に、金融機関に向けた事業展開と提言を聞いた。

――金融機関向けの事業展開は。

「第3次オンラインから金融機関のシステム基盤開発に参画している。最近は、基幹系やフロント系と共通系やCIF（顧客情報ファイル）を中心にしている。直近のサービスの一つに『デザイン思考』がある。顧客目線で企画を素早く立案する。『デザインスプリント』手法を使って、4日間で企画を考える取り組みだ。また、スマホやタブレットなどのモバイル端末を対象としたセキュリティー製品群のKAITO（カイト）シリーズにも注力している」

――カイトシリーズとは。

「カイトシリーズは、モバイル端末にデータを残さず、漏えいリスクを低減させる。シリーズのなかでも『カイトセキュアブラウザ』の金融機関の採用機関数は20を超える。導入が簡単・安価で安全性が高い。さらに、弊社製品は単品で導入可能なことが特徴。競合他社はセットで入れる必要がある」

――採用した金融機関の声は。

「金融機関からセキュアブラウザは、端末にデータを残さないので〝安全・安心〟と評価されている。同シリーズの『カイトセキュアカメラ』は、画像データを高速・安全にサーバーへ送付できるので金融機関の効率化に寄与している」

――提言を。

「金融機関のシステム開発や企画立案などの取り組みには、スピードが必要だ。早く企画し、試してダメなら諦め、すぐに捨てて、新しく企画するぐらいの気持ちを持つ方がよいのではないか」

（聞き手＝安藤　克朗）

システム開発にスピード感を

さかくら・たけし　三重県出身、57歳。1986年法大卒、ジェーエムエーシステムズ入社、2008年取締役就任、16年から現職。